



編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24

TEL 099-285-3012 E-mail : gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp http://atsuhime.kuas.kagoshima-u.ac.jp/

## ■鹿児島大学男女共同参画トップセミナー開催・・・ジェンダーバイアス縮減に向けて

「あなたは、偏見を持っています。」

・・・あなたはどう感じますか？あなたならどう答えますか？

このように言われると、大抵の人は、「偏見なんか持っていない。物事を公平に見ている。」と反論すると思いがちです。あるいは、怒り出すかも知れません。しかし、やはり、人は皆「ある種の偏見を持っている」のです。大丈夫です。この「偏見」を持っていることを非難する訳ではありません。この誰もが持っている「偏見」とは、「無意識の偏見・潜在的バイアス(unconscious bias)」と言われていています。この「偏見」は、その人の育ってきた環境の中で長期間にわたり思い込みや決めつけにより培われ、さらに、無意識のうちに出現するものですので、簡単に除外することはできません。しかし、「無意識の偏見」の存在を意識していくことで、縮減することは出来ると言われています。

男女共同参画推進センターでは、女性の活躍推進対策の一環として、この「無意識の偏見」の縮減をテーマに、沖縄科学技術大学院大学(OIST)副学長のマチ・ティルワース先生を講師のお招きし、本学役員を始めとした各部局長を対象に、OISTでの取組みについてご講演をいただくトップセミナーを9月8日に開催しました。

OISTは沖縄本島の中ほどに位置している科学技術系に特化した大学院大学です。50カ国にも及び多様な国から学生や研究者が集い、日常的に外国語が飛び交う、まるで日本国内にある海外といった様相を呈しています。

当初から多様な人々からなる環境であるため、ダイバーシティ推進はかなり進んでおり、逆に男女共同参画の方こそ今後推進していく必要のある分野だということです。男女共同参画の次のダイバーシティ推進が課題となっている大学からすると非常にうらやましい限りです。

さて、講演では、マチ先生から、具体例が示されながら、OISTでの取組みや潜在的バイアスについての説明がなされ、潜在的バイアスを縮減することにより得られる効果や縮減することの意義について語られました。欧米では、採用時のバイアス縮減の取組みは、義務化されるなどかなりスタンダードな流れとなっていますが、日本ではまだほとんどと言って良いほどなじみの少ないところだと思います。そのような中、現在、OISTでは、潜在的バイアス縮減の取組みとして、教員採用委員会のメンバーに対する研修ツールの提供等を通じ、具体化に向けた取組みの最中とのことでした。

また、マチ先生は、潜在的バイアス研修の目的として、①潜在的バイアスの例外無き自覚(誰にでも存在する)②潜在的バイアスの発現態様の把握(どのような場面で現れるか)③潜在的バイアスの影響を最小限に留める方法の学習(どうやって留めるか)を挙げられ、教員採用選考プロセスに委員会への女性の参画、学部長等への必要性の説明、教員採用委員会へのダイバーシティ・オフィサーの配置ならびに採用に係る報告書の提出を義務付けたことなどを説明されました。

最後に、OISTの本取組みの成功指標として、女性の活躍がデータ上でも明確化されること、他大学へも導入が波及していくことなどを挙げられ、日本の大学でも女性の活躍を期待していると締めくくられました。



説明に聞き入る参加者達



OISTの取組みを説明されるマチ副学長



セミナー終了後の交流会の様子

## ■男女共同参画キャリア形成セミナー開催

男女共同参画推進センターでは、女性研究者支援部会の企画として、日本ハム株式会社中央研究所所員河口友美氏を講師にお招きし、キャリア形成セミナーを開催しました。

河口氏は、社会人として働きながら、大学院博士後期課程に進学し、博士号を取得された自身の経験を元に、大学と企業の研究の違いや、企業研究者としてキャリアを継続していく上での心構え等を軽快な語り口で語られました。

氏は、大学と企業研究者の大きな違いは、企業では、目的に沿った研究、かつ短期間で成果を求められることにあると話され、また、研究以外にも、チームプレイを潤滑にするためのコミュニケーション

力の強化や戦略的企画や事務処理能力の必要性なども説かれました。

セミナー後半には、参加した学生に対し、就職の幅を広げるための修士課程への進学推奨や自由に時間の使える学生時代だからこそ、数多くの実践を通じ、様々な経験を積んでほしいなどのアドバイスが寄せられ、学生にとってもキャリア形成とロールモデル両方を兼ねた有意義なセミナーとなりました。



セミナーの様子

## ■平成28年度夏季休暇中学内学童保育(試行)実施

「キャ/VV/VV〜。」「これ楽しいね。」「こっちにおいでよ。」今年も学内の一角に、子どもたちの声が溢れました。

男女共同参画推進センターでは、ワークライフバランス支援部会の企画として、今年度も、夏季休暇中学内学童保育を実施しました。試行的実施は2年目となり、7月と8月にそれぞれ5日ずつ、計10日間の期間で実施しました。

利用対象者は、本学の教職員の子供たちで、実施期間中延べ162名の参加がありました。昨年度利用した子供も数多く参加しており、リピーター需要は、少なくないことが伺えます。

参加した子どもたちは、学内外の協力者によるプログラムに一喜一憂しながら、毎日を満喫しているようでした。

参加者には、好評の企画ではありますが、センターとしては、必要性を認識しながらも、年々厳しくなる財政の中で、どのように維持、運営していくかが課題です。



農場実習地での動物との触れ合い

# 特集

## 鹿児島大学における女性の活躍

### ■鹿児島市女性大会にて石窪特命担当理事が基調講演

平成28年10月21日に開催された鹿児島市女性大会において、本学の石窪奈穂美特命担当理事が、基調講演を行いました。

石窪理事は、消費生活アドバイザーとしても活躍されており、その経験と実績を本学でも活かしていただくため、特命担当理事に任命され、平成28年度からは本学広報と男女共同参画のアドバイザーとして県や市などの自治体と大学を結び付け、情報発信に尽力されているところです。

「みんなで紡ぐ地域づくり～いま、大切なこと～」と題された今回の講演では、初めに鹿児島大学での取組みを紹介されたあと、これからの社会のあり方について、地域社会が、「地縁・血縁」の繋がりが

本学では、女性研究者の増加策の他、女性活躍推進法行動計画に基づき、女性上位職への登用推進にも取り組んでいます。

様々な分野で、女性研究者が活躍している本学ですが、今回は、大学の経営マネジメントに関わる部分で活躍されている女性2名の活動をご紹介します。

ら「知縁・電縁」へと変わっているなど、例えを示しながら語られ、時代の変化を感じた上で、学生も地域の一員として捉えていただき、学生たち自身にも地域での小さな役割を与えることで、地域との繋がりを保つことが出来るとし、地域住民からの積極的なアプローチが、これからの持続的な地域づくりには必要だと締めくくられました。



講演中の石窪理事

### ■九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムにて橋口男女共同参画担当副学長登壇

九州・沖縄地区の女性研究者研究活動支援事業採択校を中心に結成された機関が一堂に会し、意見交換を行う「九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム」が、琉球大学とOIST（沖縄科学技術大学院大学）を担当校として、「九州・沖縄の国際化と女性研究者の役割」をテーマに、11月11日に琉球大学で開催されました。

大城琉球大学長の開会挨拶に続き、沖縄県、文部科学省来賓者の挨拶のあと、小谷元子東北大学原子分子材料学高等研究機構長の基調講演が行われました。基調講演に続き、パネルディスカッション形式で進行され、各大学から取組みや課題・展望について、発表が行われました。本学からは、橋口男女共同参画担当副学長が登壇され、本学の取組みとして、グローバルセンターの発足と女性研究者への期待な

らびに大学としての支援体制の展望等に関する説明が行われました。

その後、種々意見交換が行われ、総括として、これまでの事業を継続し、その内容を国際化推進にアレンジしていくことと地の利を活かした取組みを併せて実施していくことが重要とまとめられました。最後に、外間琉球大学副学長による

「Women Support 沖縄宣言」が承認され、ロバート・バックマンOIST副学長の閉会挨拶で締めくくられました。



本学の取組みを発表する橋口副学長

### ■鹿児島大学保育支援制度について

男女共同参画推進室では、鹿児島大学保育支援制度による学外の保育サービスを利用した際の利用費の一部補助を行っています。

本支援制度は、厚生労働省所掌事業であるベビーシッター費用割引券発行事業に代わる支援事業であり、利用には、事前に申し込みが必要です。

0～中学校就学前までの乳幼児、児童の利用が対象となっており、その他の利用条件は以下のとおりです。

- 1世帯1回の利用につき上限1,200円：同一1世帯1ヶ月4回まで利

用可。さらに、同一世帯年間36,000円を上限。

- ベビーシッターや一時保育利用など学外の保育事業者が提供する保育サービスを利用することが対象。

※予算の範囲内で行うため、予算額及び希望者数により年間の支援上限額の調整あり。

休日・祝日等に業務に従事する必要があるが、通常利用している保育施設が休日・祝日のため閉所しており、他の保育施設を利用した場合等に活用下さい。

### ■共同獣医学部における男女共同参画推進

#### 「共同獣医学部における男女共同参画推進」

共同獣医学部の女性研究者在籍比率は20.0%、女性専任教員は、11.1%（4名）であり、自然科学系学部の中では高い比率を占めています（自然科学系学部女性研究者在籍比率15.5%：平成28年10月1日現在）。本学部では、教員公募要領において女性を優先的に採用するよう努めています。女性応募者が少なく、近年30～50%で推移している女子学生比率であるにもかかわらず、内部大学院進学率は低いという現状から、鹿児島大学からの次世代研究者の育成が喫緊の課題です。

大学教員（あるいは特定のある職業）における男女比の大きな偏りは、女性にとって働きづらい職場の存在を学生に提示している一面があるため、課題解決策として、ワークライフバランス（WLB）を教育することが重要であると考えています。本学部は、高学年で研究室に配属するので、身近な教員が、学業（ワーク）と私生活（ライフ）の両立を工夫する指導が可能な環境です。

WLBを意識して生活する経験ができるよう教育することは、男女ともに学生にとって、望まない転職や離職が少なくなるなど社会に出てから役立つとともに、教員個人の生活だけでなく、職場全体への良い影響も期待できます。そして、そのような環境から、「大変そう」なイメージの大学院への進学やポスドク研究員などへのキャリア選択を意欲的に考えられるようになり、研究者への道に進む女子学生が増え、将来的に獣医学のどの分野においても男女比率に反映されるのではないかと期待しています。

その他、女子中高生への理系進路選択支援事業として実施している科学体験塾に参画し、若い世代に獣医学の面白さも伝えていきます。

（執筆：共同獣医学部 安藤匡子准教授（男女共同参画推進センター委員））



科学体験塾の様子

### ■女性研究者在籍状況（平成28年10月1日現在）

平成28年10月1日現在 人数（比率）	
全体	218名（18.4%）：+20名（+1.4%）
教員	200名（17.3%）：+14名（+1.0%）
専任教員	172名（16.4%）：+16名（+1.4%）
自然科学系	97名（12.9%）：+10名（+1.2%）
理工農水分野	24名（6.7%）：+2名（+0.5%）

※右端の数字は、平成27年度同時期との比較

### Information

<今後の予定>12月～3月

平成28年12月22日（木）12:00～14:00 介護相談会（2回目）

平成29年1月14日（土）、15日（日）平成29年大学入試センター試験時一時保育支援実施

平成29年2月 鹿児島県女性副知事による学内講演会開催（予定）

平成29年2月16日（木）12:00～14:00 介護相談会（3回目（最終））